



ランドセル

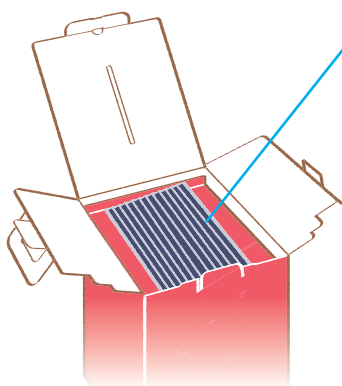
製品
保証書付

6年間サポートブック

必ずお読みください。
また、保証書になりますので6年間保管してください。

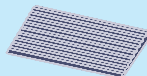


付属品を確認してください



箱の上部に入っています

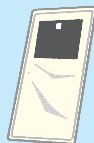
底敷き



チルトプレート
(荷重軽減タイプ)

※製品により仕様や種類が異なる場合があります。

お手入れクロス



※本革使用製品 (「HOMARE」
「オロビアンコ(ウーノ)」)
のみの付属品です。

ランドセルの中にセットされています

時間割表



ネーム札



※製品により時間割表は箱の上部に入っています。

ご参考

ランドセル使用前の準備

- ・1. 肩ベルトを調節する ……1
- ・2. 下ベルトを調節する ……2
- ・3. 底敷きを取り付ける ……2

各部の名前 ……3

- 上手な使いかた ……5
- お手入れ ……7
- ご注意 ……9

よくあるご質問 …… 10

軽く感じる背負い方とは?

準備を始める前に!

ランドセルをからだに密着させるように背負うと、肩や腰にかかる負担は小さくなり、実際の重量よりも軽く感じることができます。お子さまの体型に合わせて肩ベルトを調節して、ランドセルとからだの間のすき間を減らすように背負いましょう。

肩ベルト調節のポイント!

- 背負ったときにランドセルが地面に対して垂直になっている。
- 背中にピッタリ密着している。



肩ベルト調節のタイミング

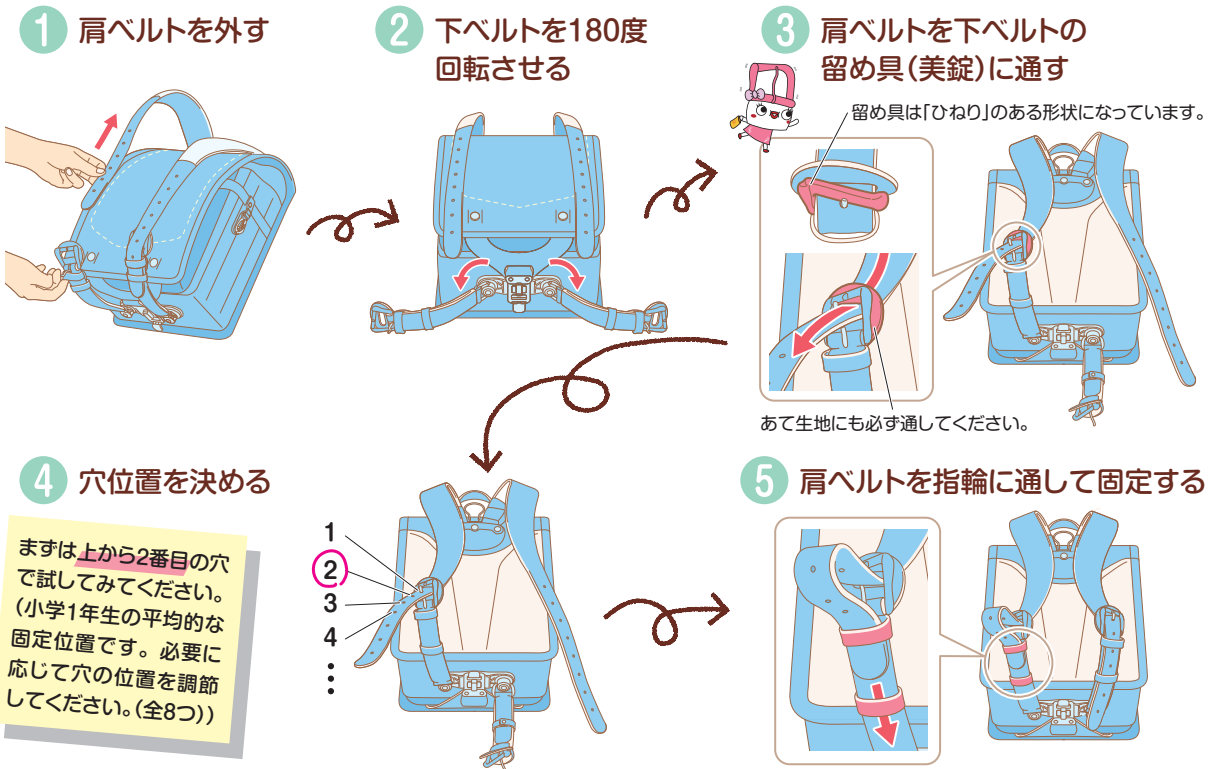
- お子さまの服装や成長に合わせて穴の位置を調節する。



ランドセル使用前の準備

1. 肩ベルトを調節する

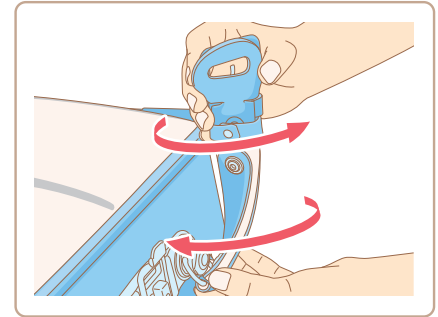
※各部品についての詳細は「各部の名前」を参照ください。(3~4ページ)



2. 下ベルトを調節する

わき腹に沿ってフィットするようにひねってご使用ください。

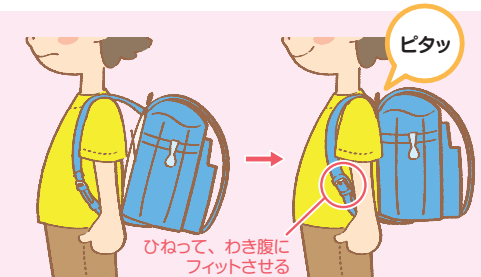
※ひねる、ことが可能な形状保持プレートが内蔵されています。
※「HOMARE」「スゴ軽®」「スゴ楽®」シリーズには搭載されていません。



体感重量の軽さの秘密!

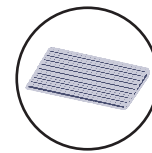
- 天使のはねランドセルの肩ベルトは、からだのラインに沿って、立体的に密着して背負えるように設計されています。

※からだとの接地面積を増やすことで軽く感じられます。



「スゴ楽®」シリーズは調節の方法が異なります。詳しくは別紙のご案内リーフレットをご覧ください。

3. 底敷きを取り付ける

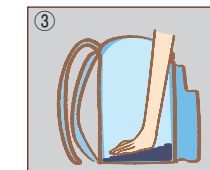
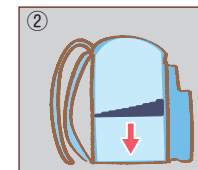


チルトプレート

傾斜のついた底敷きです。教材がいつも背中側に倒れるようにサポートし、重心を安定させて軽く感じさせます。

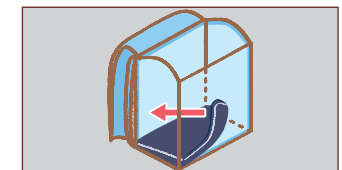


取り付けかた



- ①両面テープのはく離紙をはがす。
- ②ランドセルの底についているゴミや汚れを取り除いた後、両面テープが貼ってある面を下にして、傾斜の低いほうが背中側になるように、ランドセルの底に取り付ける。
- ③上からしっかりと押さえ、24時間以上放置してください。
※貼り付け後、すぐにはがすと粘着力が低下します。

取り外しかた



• 端からゆっくりと、めくるようにはがしてください。
(勢いよくはがすとプレートが破損する恐れがあります。)

使用時のポイント!

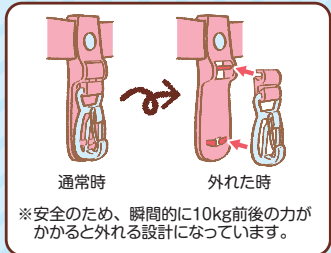
- 教材をずらすときは、段差に引っ掛からないように少し持ち上げて動かす。
- チルトプレートの接着面は面ファスナーになっているので、お手入れのときに自由に着脱することが可能です。(お手入れ方法 → 8ページへ)

※製品により底敷きの仕様や種類が異なる場合があります。

★「スゴ軽®」シリーズはランドセル本体に傾斜がついた構造になっているため、チルトプレートは付属していません。

各部の名前

※製品によって、一部仕様が異なる場合があります。



- 1 **カブセ**
ランドセルのふたです。教科書類を雨などから守る役目を果たします。
- 2 **カブセ鉸**
カブセ部分に付けられた金具です。反射材を使い、安全面に配慮したものもあります。
- 3 **持ち手ハンドル**
肩ベルトの付け根部分に付いた持ち手です。手で持つ際の持ち運びがしやすくなります。
- 4 **肩ベルト**
ランドセルを背負うときに腕を通し、肩に掛けるベルトです。
- 5 **セパレート式安全フック**
フック状の部品で、給食袋などを付けます。安全対策として、一定以上の荷重で外れるしくみになっていて、外れたときは、再度付け直すことが可能です。

- 6 **小マチ**
大マチより手前にある柔軟性のある収納スペースです。筆箱などを入れるのに適しています。
- 7 **前ポケット**
ファスナー付きの収納スペースです。
- 8 **前ベルト**
ランドセル本体の側面から前面にわたっているベルトです。
- 9 **大マチ**
教科書などを収納するメインスペースです。

- 10 **背カン**
肩ベルトとランドセル本体をつなぐジョイント部分です。肩ベルトが肩にフィットするように、角度を調整する部分です。
- 11 **防犯ブザー用フック**
防犯ブザーを掛けるための金具です。
- 12 **背あて**
ランドセルを背負ったとき、背中にあたるクッション部分です。
- 13 **吊りカン**
ランドセルをフックなどに掛けるための金具です。
- 15 **留め具(美錠)**
肩ベルトと下ベルトをつなぐ金具です。
- 16 **指輪**
肩ベルトを通して、肩ベルトが浮かないように固定するベルト通しです。

- 17 **ダルマカン**
下ベルトとランドセル本体をつなぐ金具です。丸い形をしていて、背負いやすいように回転するしくみになっています。
- 18 **錠前(ワンタッチオートロック/シャトルロック)**
ランドセルのカブセと本体を留める金具です。
- 19 **下ベルト**
ランドセルの底から出ているベルトです。これと、本体上部から伸びる肩ベルトを留め具(美錠)でつなぎ、一本のベルトにして背負います。
- 20 **錠前差込み**
錠前を留める金具が付いているY字型の部分です。
- 21 **つまみ生地**
錠前開閉時に、つまんで使用するための生地です。
- 22 **錠前つまみ**
回して施錠したり、解錠したりする部分です。
- 23 **サガリ**
ランドセルのカブセと本体を留める金具です。

上手な使いかた

大マチ、小マチ、前ポケットを使い分けて、収納力をUPさせよう!

小マチは大マチに比べて柔軟性のあるポケットになっています。

小マチ

筆箱や連絡袋などを入れる。
(※小マチに教科書や定規などの硬いものを無理に詰め込むと、型くずれや破れの原因になります。)



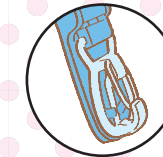
大マチ

教科書などの重くて硬いものを入れる。



前ポケット

ハンカチなどの小さなものを入れて、スッキリ収納! フックには鍵を付ける!

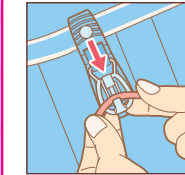


安全フックを活用しよう!

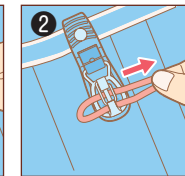
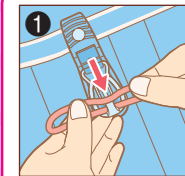
安全フックは給食袋などを掛けられる安全設計のフックです。ちょっとした荷物は安全フックに掛けて、両手を使えるようにしましょう。



荷物の取り付けかた



・台座に固定されている安全フックを少し手前に持ち上げ、取り付けたいヒモを引っ張りながら親指で押し入れ、フックを台座に固定させる。



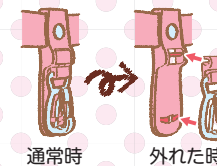
荷物の取り外しかた

- ①安全フックの外側にある荷物のヒモをもう一度取り付け時と同じように親指で押し入れる。
- ②そのまま引き抜く。

Point!

自転車などによる引きずり事故防止のために

安全フックは瞬間的に10kg前後の強い力で引っ張られると外れるように設計されています。



外れても図のように押し込めば再度取り付けることが可能です。



安全のためヒモは短くしよう!

OK



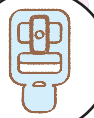
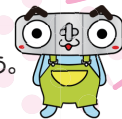
ヒモが長い

ものを掛けすぎる

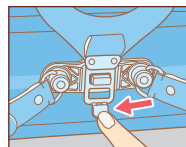
NG

ワンタッチ錠前でしっかり施錠しよう!

ワンタッチで簡単に施錠できます。ランドセルを背負うときには必ず施錠して、安全に使いましょう。

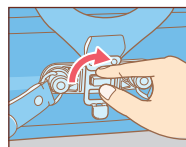


“ワンタッチオートロック”タイプ



施錠のしかた

荷物の量に合わせてサガリの
上段、下段を選び、サガリ
を押して施錠する。※
(オートロック)



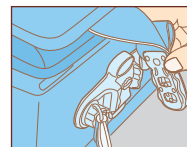
解錠のしかた

錠前つまみを左右
どちらかに回して
解錠する。
(手動)

※サガリは通常は、上段をご使用ください。

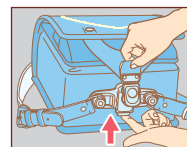


“シャトルロック”タイプ



施錠のしかた

荷物の量に合わせてサガリの
上段、下段を選び、本体
の金具突起部にあてて施錠
する。(オートロック)



解錠のしかた

解錠ボタンを押して
解錠する。
(反対の手でつまみ
生地を持って外す。)
(手動)

解錠ボタン

お手入れ

汚れが目立つ前に!

こまめなお手入れを心がけることで、6年間キレイにお使いいただけます。



外側のお手入れ



本革

- ① 柔らかいブラシなどでホコリを落とす。
- ② 乾いた布で汚れを拭き取る。
【乾いた布で汚れが取れない場合】
- ③ 柔らかい布を水にぬらして、よく絞ってから拭く。(本革表面には、色落ちしにくく、はっ水、防汚効果のある加工がされています。)
- ④ 直射日光の当たらない場所でよく乾かす。

Point!

・汚れ落としなどの革専用のクリーム剤を使用する場合は、目立たない部分で変色、色落ち、白化がないことを確認のうえご使用ください。

シンナー、ベンジンなどのアルコール系の溶剤は、色落ちの原因となるため使用しないでください。

人工皮革

(クラリーノ®・アンジュエールなど)

- ① 柔らかいブラシなどでホコリを落とす。
- ② 柔らかい布を水にぬらして、よく絞ってから拭く。
- ③ 水拭きで落ちない場合は水で薄めた中性洗剤で汚れを拭き取る。(注1)
- ④ 洗剤が残らないように、水を含んだ柔らかい布でもう一度拭く。
- ⑤ 直射日光の当たらない場所でよく乾かす。

Point!

・ウェットティッシュで拭き取る場合は、アルコール成分を含まないものをご使用ください。

(注1) 中性洗剤をご使用の際は洗面器の水に対し、1滴程度で溶いてください。

人工皮革+一部本革使用

- ・ランドセルの部品によって素材が異なります。各部品素材に合ったお手入れをしてください。
- ※対象商品「オロビアンコI(ウーノ)」
- ・本革使用部分
 - カプセ
 - 前ポケット
- ・人工皮革使用部分
 - 上記以外の部品
- ※各部品の場所は「各部の名前」を参照ください。(3~4ページ)

カバーの色移りを防ぐために!



カバーを付けているとき

- ・カバーを付けたままにすると、ランドセルに張り付いてしまったり、色移りやカビの発生原因となります。週に1度、定期的に取り外してお手入れすることをおすすめいたします。とくに、雨でぬれてしまったときや、夏休みなどの長期休みのときはカバーを外して保管し、ランドセルを使用するときに付け直すようにしてください。

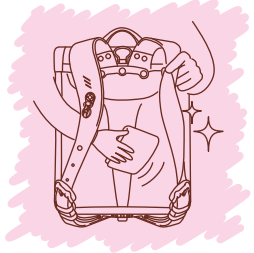
雨や汗にぬれてしまったとき

- ・なるべく早く、乾いた布で水分を拭き取り、ゆっくりと陰干しで乾かす。(直射日光や暖房機などでは乾かさなさないでください。)



背あてや肩ベルト裏のお手入れ

- ① 柔らかい布(タオルやガーゼなど)を水にぬらして、よく絞ってから拭く。
- ② 水拭きで落ちない場合は、洗面器にためた水に界面活性剤の入った中性洗剤を1滴たらし、柔らかい布に浸透させて汚れを拭き取る。
- ③ ランドセルの表面に中性洗剤が残らないように、水にぬらした柔らかい布で十分に拭く。
- ④ 最後に乾いた布で表面の水分を拭き取る。



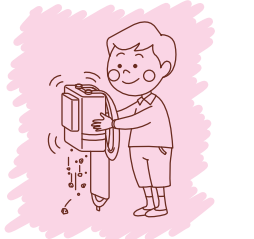
Point!

- ・頑固な汚れは軽くたたき落とすように拭き取る。



内側のお手入れ

- ① アルコール成分を含まないウェットティッシュや水にぬらし固くしぼった柔らかい布などで内部の汚れを拭き取る。
- ② ランドセル内部の底板に鉛筆の芯や削りカスなどがたまる場合があるため、定期的にランドセルの中身を空にした状態で逆さにしてゴミをはたき落とす。

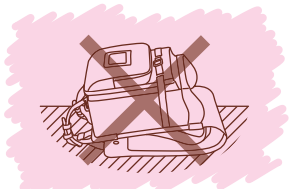
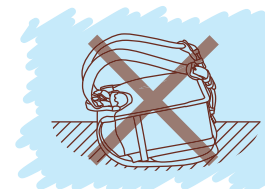


チルトプレートのお手入れ

- ・柔らかい布を、水または水で薄めた中性洗剤に浸し、よく絞ってから拭く。
- ・面ファスナーにゴミ等が付着して、くっつきが悪くなった場合、表面に付着しているゴミを取り除く。
- ※チルトプレートをランドセルから取り外すときは、端からゆっくりとめくるようにはがしてください。(取り外しかた ➡ 2ページへ)
- ※製品により底敷きの仕様や種類が異なる場合があります。

ランドセルの保管方法

- ・カビ防止のため、高温多湿な場所を避け、直射日光の当たらない室内の通気性の良い場所で保管する。(長時間直射日光に当たったり、高温な場所で保管すると変色することがあります。)
- ・カプセを下にした状態で床や地面に置くくとキズや汚れの原因になりますのでお控えください。
- ・カプセを折り曲げて置くとカプセにシワが付いたり跡が残る原因となります。



ご注意

使用上のご注意



注意

カバーの色移りを防ぐために!



- ・レインカバーや市販の交通安全カバーなどは週に1度、取り外して点検してください。雨でぬれてしまったときや、夏休みなどの長期休みのときはカバーを外して保管し、ランドセルを使用するときに付け直すようにしてください。長期間付けたままにすると、ランドセルの表面のムラや変色の原因になります。



禁止

- ・セパレート式安全フックに1kg以上のものを掛けしないでください。重いものを掛けると破損する場合があります。



- ・ランドセルを乱暴に扱わないでください。ランドセルは6年間の使用に耐えられるようにつくられていますが、乱暴に扱うと型がくずれたり、破損したりする場合があります。



- ・シンナー、ベンジンなどのアルコール系の溶剤は絶対に使用しないでください。色落ちの原因になります。



安全上のご注意



注意

- ・錠前(ワンタッチオートロック/シャトルロック)は正しく施錠してご使用ください。施錠せずに使用されると、教科書などが飛び出しやすく危険です。



- ・ランドセルは両肩に掛けて正しくご使用ください。片方の肩のみに掛けて使用されると周囲のものに引っかかりやすく危険です。



- ・部品が破損した場合、取り扱いに十分にご注意ください。破断面が鋭利になっていることがあり、危険です。



よくあるご質問



ランドセルのサイドのフックが取れた



セイバンの「セパレート式安全フック」は、自転車などによる引きすり事故防止のため、強い力で引っ張ると、自動的に外れる安全機能がついています。外れても再度お取り付けいただくことができます。(詳しく見る → 6ページへ)



ランドセルが壊れたらパーツだけ取り寄せて自分で修理できますか?



故障が発生した場合には、ランドセル本体を工場でお預かりして修理対応をいたしますので、まずはご購入店またはカスタマーセンターへご相談ください。「セパレート式安全フック」の故障・紛失時のみ、お客様へパーツの発送を対応しており、ご自身でお取り付けいただけます。



留め具(美錠)が歪んでいる



天使のはねランドセルの留め具(美錠)は、わき腹に当たりにくいようにあえて「ひねり」を加えて設計されています。



上の子(兄、姉)が6年間キレイに使えたから下の子(弟、妹)にお下がりで使わせたい



ランドセルに使用しているパーツや素材(人工皮革、本革)の耐久年数は8~10年となっております。そのため、経年劣化によりランドセル自体の強度が保てなくなってしまうので、6年以上のご使用はお控えください。(故障した際、修理をお受けできない場合があります。)



身長が伸びてきて(からだが大きくなって)背負いづらい



セイバンのランドセルは6年間ずっと使えるように、体格に合わせて肩ベルトを8段階で調節できるようにつくられています。万が一、体格が大きくなって8段階の調節内で背負えなくなったお子さまのために、15cm長いロング肩ベルトもご用意しております。ご入り用の際には、肩ベルトを交換(有料修理)いたしますので、カスタマーセンターへお申し出ください。(ロング肩ベルトへの修理の場合、ご購入いただいた製品仕様と仕上がりが一部変更になります。)



ランドセルカバーは付けたほうがいいですか?



ランドセルの本体素材には、**はっ水加工が施されていますのでカバー無しでご使用いただけます。**キズなどの防止のためにカバーを付けたら6年間キレイな状態を保てますが、**長期間付けたままにするとランドセルに張り付いてしまったり、色移りするおそれがあります。**また、**湿気がたまりカビの発生原因にもなります。**定期的に取り外してお手入れをしてください。**カバーが雨でぬれてしまったときや、夏休みなどの長期休みのときは必ずカバーを外すようにしてください。**